

東洋大学名誉教授・教育環境研究所所長 長澤 悟 氏による講評

発表を聞かせていただき、熱気に圧倒されました。

大人の皆さんは、小学生や中学生がきちんとテーマをとらえて、考え、説明できるということを嬉しく、頼もしく感じられたのではないかと思います。

また、子どもの皆さんにとっては、大人は地域のことも含めて学校を考えていることを知るなど、いろいろな学びがあったかと思います。

新しい学校を考えるときに、「室名から考えることはやめましょう」という言い方があります。教室とか理科室と聞くと、自分たちが経験した教室や理科室がまず頭に浮かぶことができます。

そこで、室名から離れて、「あんなことをしたい」。そのためには、「こんな場所があるといいな」という“情景を描く”ということが大切です。そうすることで、今までの学校にとらわれない、自分たちの学校が描けるのではないかと思います。特に子どもたちの「～をしたい」という意見は、今後の建築を考えるに当たって大きなヒントや手がかりを与えてくれると思います。

「授業では学べないことを学べる学校」や「友達と一緒に」といった意見が出ており、学習指導要領の次の改訂で議論されているテーマが、きちんと皆さんの声として挙がっていると感じました。

あわせて、子どもたちの意見にもありましたが、学習に集中した後は、リラックスできる場所が大事です。また、学校というものは、子ども同士、あるいは地域の人たちと子どもたちみんなが交流する場所でもあります。

施設面についても、今日課題とされていることが全体的に提案されており、皆さんの評価でも、そうした点がきちんと注目されていました。

冒頭で、大人の皆さんが、子どもたちの発表や受け答えを聞いて、嬉しく、頼もしく感じられたのではないかと申しましたが、私自身も行田の子どもたちの様子を見て、ここからどんな学校ができてくるのか、とても楽しみにしています。